

# コロナ禍の今、求められる「人と人とのつながり」

盛岡モラロジー事務所

代表世話人 高橋 秀治

私は、盛岡モラロジー事務所の代表世話人を務めております。

モラロジーと聞きなれない言葉かもしれませんが、モラル（道徳）とロジ（学問）を組み合わせた、道徳科学という意味の学術名称です。

大正15年に、法学博士・廣池千九郎により、モラロジー道徳教育財団（当時の名称は、道徳科学研究所）は創立されています。創立以来96年にわたって、道徳科学モラロジー、倫理道徳の研究と、社会教育と道徳教育を推進しています。そして、その取り組みの一つとして、昭和38年から、道徳教育の支援を目的に「道徳教育研究会」を全国で開催しております。

## 道徳教育研究会の開催を通じて

令和元年に開催した、第56

回道徳教育研究会（岩手県・盛岡会場、大会テーマ「道徳教育の新たな充実をめざして」）では、実行委員長を務めさせていただきました。

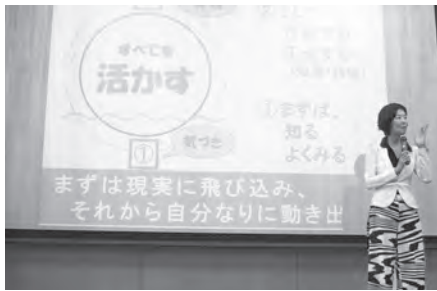
道徳教育研究会のねらいは、知徳一体の教育のあり方を探求し、大人世代自らが「よい生き方」をめざし、「思いやりの心」を育て深めることで、真の教育力を養うことです。

当日は、現職の幼稚園・小学校・中学校の教職員の皆様を含め、60名もの参加をいただき、講師3名による講話や質疑応答を行い、その実践について考える研究会となりました。

大人世代一人ひとりが、道徳教育の持つ価値を発信すること、「豊かな心」や「生きる力」を育む学校づくり、支え合い安心して暮らせる社会づくり、世界に貢献する力

をもった品格ある国づくりに繋げていきたいものです。

この日本に生まれてよかったですと思える地域づくりのため、私も盛岡モラロジー事務所でも、将来を担う子どもたちの見本となるような活動を進めていきたいと考えております。



第56回道徳教育講演会の様子。講師は二宮尊徳の7代目、中桐万里子氏

## コロナ禍を機に、「人と人とのつながり」について考える

これまで、食事をしながらお酒を飲み交わしながら、

近況を伝えあい、あんなことやこんなこと、他愛もないことを話しているだけで、日々の活力を養うことが意識しなくても自然とできていました。

この2年間は、人と人とのつながりについて、改めてその大切さに気付く機会をいただいたともいえるかもしれません。

コロナ禍に伴い、授業がオンラインになり同級生と交流する機会が減り、孤独を感じる若者が増えているといわれています。

孤独は、心のみならず体の健康にも悪影響を与えられているといわれています。

そして孤独の対策は、まめに連絡をとることが効果的です。対面で会うことが難しい場合は、電話やビデオ通話、メールやSNSなどを活用し連絡することで、孤独を多少ならずとも和らげ合う、思いやりの心が大切になってきます。

## 感謝と思いやりの心で日々を過ごす

お互いが孤独に陥らない環境づくりのため、人への思いやりと感謝を意識した生活を

過ごしたいものです。

自分のためだけに生きるのではなく、他人のお役に立つことを考え行動することで、人とのつながりが生まれ、安心感を得ることが出来ます。

また、連絡をとるときは、対面でもオンラインでも、「ありがとう」という言葉を意識して使うことで、言った人にも言われた人にも、温かい感情が生まれ、幸福感を得ることが出来ます。

普段のコミュニケーションを通じ、安定した人間関係を築く努力を自ら行い、幸せな人が増える環境づくりの一助になれることを願っています。

## プロフィール

高橋 秀治  
(たかはし しゅうじ)  
コスモ通信システム代表取締役。  
約30年以上前からモラロジーの運動に関わり、平成25年から代表世話人となる。

